献　辞

上田女子短期大学学長　小　池　　明

松田幸子先生は、平成12年4月に上田女子短期大学学長に就任され、10年間、学長職を務められた後、平成22年3月に退任されました。しかし、先生の本学との係わりは更に以前、昭和56年に非常勤講師として赴任された時にまで遡ることができます。

爾来29年間に亘り、その殆どを教授として直接、学生の指導に当たられると同時に、この10数年は副学長、学長として学園の運営、発展のために、その深い学識ばかりでなく教育界に於ける長い御経験を惜しみなく捧げて戴きました。

固より先生は御自身、哲学者として、ヤスパース研究とその今日的意義の紹介などでは第一人者であり、加えて哲学に留まらず一般の御著作も多く、教育学も含め斯道に於ける権威であられますが、ともすれば高踏的に陥りやすい哲学、倫理学といった学問を、入学したばかりの学生から一般の人々にまでかみ砕いて理解させること、そしてそれを生活にどう実践すべきかをも親身に教導されてきました。

学長在任中は短大を取り巻く環境が往時とは激変する中で、本学の伝統を守りつつ、時勢を取り入れた新しいカリキュラムの採用などに腐心され、教職員の先頭に立って本学の大きな使命である女子教育の充実に多大の尽力をされました。一方、短大が他に果たすべき使命として、地域との交流、地域文化への貢献という命題に対しても、大学を挙げての活動と共に、個人としても30年に垂んとする哲学サロンなど長く啓蒙活動を実践してこられ、それは今も継続して取り組まれています。同時に、短大という枠、或いは上田という地域を超え、長野県教育委員長として広く県下の教育を統括される傍ら、長野県女性プラン推進委員会委員長なども歴任、女性の地位やプレゼンス向上のために奮迅の活躍をされました。その足跡、御貢献の大きさに叩頭する思いであります。

先生の御退任は洵に惜しいものがあります。まだまだ本学陣頭に立たれての御指導に与りたいとの思いはみな斉しくありますが、公務を離れ、御自分の研究の貫徹と、同じく長く学者の道を続けておられる御伴侶との余暇を取り戻したいとの切なる御希望には、これまでの学恩を思えば更なる御無理をお願いする訳には参らなかったことも事実であります。

そこで今般、上田女子短期大学紀要第34号を発行するにあたり、茲に謹んで松田先生の御功績の大きさを讃え、改めて心よりの感謝の念を込めてこの記念号を献呈申し上げる次第です。